

授業科目名	高齢者看護学臨地実習 I	担当教員	◎青山美紀子、川上裕子
必修	開講年次：3年後期	単位：1 単位	授業形態：臨地実習 45 時間

【授業概要】

加齢に伴う変化や健康障害のみならず、高齢者がこれまでに歩んできた人生、家族関係、地域社会での役割などを含めた包括的なアセスメントから高齢者を理解する。また、高齢者施設における他職種連携の実態と看護師の役割を学ぶとともに、自己の倫理観を高める。

【授業目的・目標】

1. 加齢に伴う変化や健康障害が日常生活に与える影響を知り、個別の加齢過程ならびに健康状態を表現できる。
2. 高齢者施設における看護師の役割、他職種との協働・連携について述べるができる。
3. 高齢者を尊重する態度と専門職としての倫理観をもった行動をとることができる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習 I・II」、「高齢者看護学概論」「高齢者看護援助論」を修得していること

【授業計画】

- 実習 1 日目 オリエンテーション（実習施設の概要・受持ち対象者の事前学習）
- 実習 2～4 日目 高齢者の生活を支援する看護実践を学ぶー
受持ち利用者を包括的にアセスメントの基本的脳力を養う。
施設看護の特徴を理解できる。
- 実習 5 日目 全体グループ討議、面談評価

【教科書】

指定なし

【参考書】

高齢者看護学概論や高齢者看護援助論で使用した教科書、参考書、資料

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価 70%、事前学習 10%、態度・行動 10%、カンファレンス参画度 10%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：高齢者の病態生理からフィジカルアセスメントが理解できること。看護技術（バイタルサインの測定、日常生活援助技術）については、安全安楽に実施できるように事前学習する。

事後学習：1 日の実習終了時に各自が体験したことを振り返り、必要な知識を深めた上で記録を完成させえる。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、IX. あらゆる対象に向けた包括的な看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については評価コメントを付けて 4 年次前期に学生個人に返却する（掲示により連絡）

【備考】

- ・加齢による変化及び病態生理に基づいたアセスメントを理解しておく。
- ・高齢者看護学臨地実習 II（リハビリ期）の基礎となる。
- ・詳細は高齢者看護学臨地実習要項にて確認すること。